入社先決定 学生の5割

人材確保 前倒し鮮明

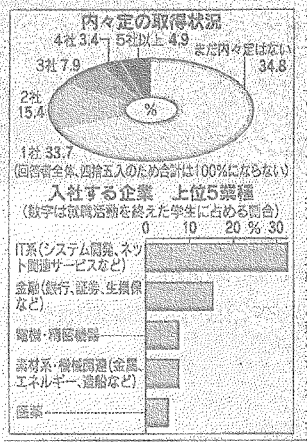
大企業・中小、格差拡大も

本紙ネット調査

来春卒業予定の大学生の就職活動について日本経済新聞社とNTTレゾナントのgooリサーチが実施したネット調査によると、七月初旬までに五割強の人が入社企業を決めていることがわかった。本業まで約九カ月残した時点で多くの学生が就職活動を終了、企業が人材を早めに確保する動きが例年以上に活発だったことを裏付けた。就職活動を終えた学生の四割弱が東証一部上場企業を選択、企業規模による採用力の格差が一段と開いている可能性が高い。

08 採用前線

すでに大学3年生向け就職イベントが始まっている（日経HRが6月初旬に東京都内で開いたイベント）



調査は七月二日から六日に実施。回答者は二百六十七人で四六・四%が男性、五三・六%が女性。文系が六〇・七%、理系が三九・三%だった。

日本経団連の取り決めで大手企業は十月一日に内々定を出せないと学生に採用内定を出せない。このため現時点では「内々定」の形で採用を確約する。

回答者のうち百七十四人（六五・二%）が内々定を取得、百三十六人（五〇・九%）が入社する企業を決めたと答えた。内々定を得た学生のうち、四八・三%が複数企業からの内々定を持つ。企業は内々定を出した学生の一部が入社しないことをこれまで以上に考慮に入れる必要がある。

内々定を得ていない学生も全体の三四・八%いる。これから本格化する中小企業の採用や大企業の秋採用に臨むことになりそうだ。

好業績を背景に企業は軒並み新卒採用枠を拡大。学生の人気が高い大手金融機関が積極採用の姿勢を鮮明にしたことも加わり、今年は人材獲得競争に拍車がかかった。

「昨年まで四月下旬に内々定を出していた企業が、今年は四月上旬に前倒しする動きが目立った」（就職情報会社ディスコの武井房子・調査課長）。六月には再来年春卒業予定の大学三年生を対象にした就職イベントも始まっている。

入社する企業を見ると、就職活動を終えた学生の四四・一%が「東証一・大証一部上場企業」と回答した。サントリーやJTBに代表される未上場の大企業を合わせると五二・九%が大企業を選んだ。民間企業で働く人の約七〇%が勤める未上場の中小・ベンチャー企業に入社すると答えた人は二七・六%だった。

学生に入社企業を絞り込む際に重視する項目を三つまであげてもらったところ、「やりたい仕事ができる」（五九・八%）に続いて「社員や職場の雰囲気」が四〇・二%で二位に入った。企業は自社の魅力だけでなく、採用選考の過程で学生に好印象を与えることも欠かせなくなっている。

新入社員研修などを通じて若年層の動向に詳しい、日本能率協会の杉本守孝理事は「上司や先輩社員との人間関係を構築することに、不安を感じる新入社員が増えている。五年前には二〇代前半が育ってきた団塊世代の社員が六十歳の定年を迎える「二〇〇七年問題」については、多くの企業が定年を過ぎた社員を嘱託・契約社員として再雇用することに振り切ることも、増えた」と指摘し、「少子化の影響で、他人との摩擦を避ける傾向が強い」と分析している。

人材の質・量 両立難しく

採用業務の負担増す

企業側にとっても今年の採用活動はヤマを超える一方だ。多くの企業は「バブル期採用で量の確保に走りすぎ、人材の質が低下した」（[illegible]）と悩んだ苦い経験がある。人材獲得競争が激しくなる中で、企業の採用部門にかかる負担は重くなっている。

当時の反省から、採用基準を維持しようとする企業は多いものの、量の確保との両立は年々難しくなっている。

就職情報会社のディスコがまとめた「二〇〇七年採用マーケットの分析」によると、採用担当者の五五・六%が「採用基準に達する応募者の不足」を業務での懸念材料にあげた。

今年は新卒採用市場が学生優位になって三年目。企業の人材の質へのこだわりは強いが、「現有のスタッフと真っ向で人材獲得競争に勝ち抜けるのか」という思いを抱いている採用担当者は少なくない。

就職活動を終えた大学4年生の声

▽東京大学文学部のA君（25）
大手銀行や大手証券会社など4社から内々定。「6月後半まで遠いに遠った」末に大手不動産会社を選ぶ。内々定者対象の物件見学ツアーで社員や内々定者と接するうちに「この人たちと一緒に働きたいと感じた」

▽東京理科大学大学院のB君（24）
大手OA機器メーカーに入社予定。規模や知名度では格上の大手総合電機メーカーの内々定も得ていたが、「社員が学生と対等に接してくれた」

▽上智大学理工学部のC さん（22）
グループ面接について「学生が発言できる時間はごくわずか。長所や人間性を見ることができるのか」と疑問を呈す。「面接で学生の話をじっくりと聞いてくれた」大手シンクタンクへの入社を決めた

▽日本女子大学文学部のD さん（21）
大手ホテルの面接を批判。「担当者が学生の発言内容をことごとく否定していた。ストレスへの耐性を見るためだと思うが、ホテルの印象が悪くなるだけ」。航空会社を選ぶ

（注）日経HR（東京・千代田）の協力を得て聞き取り取材